

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770101897		
法人名	社会福祉法人 ゆず福祉会		
事業所名	グループホーム ユーズホーム		
所在地	福島県福島市泉字台1-1		
自己評価作成日	平成21年7月25日	評価結果市町村受理日	平成21年11月18日

・ボランティアと協力し、畑、ガーデニングなど園芸活動を行っている。
 ・見学者、ボランティアを積極的に受け入れ、グループホームのこを知らせてもらえるように心がけている。
 ・地域社会とのつながりを大事にし、外出の機会を多く持っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

郊外の住宅地にある事業所は同法人運営のデイサービスセンターに隣接しており、特にデイサービスセンターに頻りに訪れるボランティアによる演奏会やダンスなどにグループホームの利用者も一緒に参加したり、お手伝いをしたり利用者同士の和やかな交流が行われている。共有空間としての中庭が効果的に活用されており、パラソルの下にテーブルをセットしティータイムを楽しんだり、ゆったりと自然の空気に触れながら季節の草花の手入れをしたり自由に過している。東京センター方式を活用するなどして利用者の意向把握を行い個別ケアに反映させている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成21年9月18日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示すると共に、会議にて理念に沿った目標を掲げ話し合ったりして共有を図っている。また、行事を通じてグループホームへ理解を呼びかけている。	地域密着型サービスの理念を踏まえた独自の理念を事業所内に掲示し、職員会議、研修、行事等を通して理解を深め、理念の具体化に努めている。また新規採用職員に対しても勉強会を通して理念の共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域への外出やボランティア、体験学習、見学など受け入れを積極的に行い交流に努めている。 小学校訪問や法人主催の夏祭り開催し、地域となじみの関係を築いている。	日常的な外出やお祭りなどの地域行事を通して交流を深めている。体験学習や見学などの受け入れも積極的であり、ボランティアによる庭や菜園の手入れなど協力が得られている。町内会の総会にも参加し地域の一員としての交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌に介護予防や介護相談についての紹介を行ったり、福祉体験ボランティアの受け入れやホーム見学、電話等での相談に気軽に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	定期的に会議を行い、ホームの行事報告や利用状況をお知らせしたり、時には協力依頼をしたり、意見交換を行っている。また、食事会を開き、利用者や職員と交流をもてるようにしている。	2ヶ月に1回定期的に会議を開催し、外部評価の結果報告、行事報告、施設運営等に関する意見交換・情報交換を行っているが、委員が会議運営に主体的にかかわる意識が薄いためか参加者が少ない場合が見られる。	運営推進会議は、委員から助言を得ながら地域に開かれた事業所としての役割を果たすことが必要であるため、委員に対する意識付けが必要と思われる。また、行政の出席回数は実施回数の過半数が望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険に関する相談窓口としては連絡を取っているが、密な連絡は取っていない。	介護保険担当者との連携は事務的な電話報告等が中心であり具体的なケアサービス内容の伝達や協力を得られる関係には至っていない。	できるだけ行政担当者を直接訪問するなどして現場の状況を伝えたり、情報提供したりし連携を深めて欲しい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議にて身体拘束の内容と対応について学習した。現在、拘束をしていないが、今後も拘束をしないケアを心がけ、万が一の対応について話し合った。	毎月実施しているスタッフ会議や外部研修等を通して身体拘束をしないケアに努めている。マニュアルも整備されており身体拘束の対象となる具体的な行為も把握している。玄関や非常口も施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法律については学習していないが、虐待行為に当たるようなケアをしないよう、職員間で目配りし、身体的虐待ばかりでなく、精神的虐待についても意識し話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について運営推進会議で地域包括職員の方に説明してもらい、認識した。該当者が今のところいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に契約書を渡し、十分に内容を確認してもらったり、利用者の情報収集と家族の要望・不安などの相談に十分応じて契約の説明を行った。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には、普段の会話の中で意見を聞くようにし、家族には面会時、出来るだけ職員が話す機会を持ち、要望を聞いたり、運営推進会議にて第三者を交え、意見を言える環境を配慮している。	家族の面会も多く要望や意見を聞く機会を持ち運営に反映させている。また、運営推進会議でも家族の代表からの発言の場を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期の職員会議にて意見を伝え、話し合ったり、随時相談に応じ、活かせるものについては検討している。	法人代表に代わる施設長、管理者、職員による定期的会議を持っており職員の待遇面の改善や事業運営に対する意見交換等を行いサービスの質の向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通じ、個人の勤務状況や実績の報告を受け、把握。働きやすい勤務調整を行ったり、やむを得ず残業時間を確保するなど働きやすい就業環境を作るようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に出来るだけ参加するようにしたり、内部勉強会を計画的に行うように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し管理者が、研修委員として参加したり、交換研修へ参加したり、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と面談し、家族からの情報収集をしながら状態を知り、まずホームで過ごしやすい環境を整え、話しかけを行いながら本人の思いを知ることから行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と面談し、介護の状況を聞き、不安や要望を聞いていたが、一部の家族の情報ではなく、細かい情報も必要だった。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居が必ずしも本人の現状にあったサービスなのか、本人状況と家族、ホームのサービスについて冷静な話し合いを入居以前に考慮に入れておくべき。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で一緒に出来る家事など協力して行ったり、昔話を聞いたり、仕事を教わったり、職員の強制でなく、楽しんで役割を行ってもらえるように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時、利用者について近況報告はもちろん、相談や何気ない対話を心がけている。 行事にも声をかけたり、遠方の家族には近況報告の便りや写真を送るなどしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの店に買い物に出かけたり、娘さんの店を訪ねたり、家族の送り迎えで同級会に参加したり家族とお墓参りに行ったり、なじみのボランティアと畑仕事を楽しんでいる。	日常的に買い物や散歩等の外出支援が多く、地域の方たちと挨拶や会話を交わすなど馴染みの関係が出来ている。中庭の木の手入れなどに定期的にボランティアが訪れており、利用者も親しく交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いにコミュニケーションがとりにくい関係でも、職員が間に入り、歌や踊りで交流したり、テーブルの席を配慮したり、少人数での外出などで関わりをもてるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族がホームに立ち寄られたり、協力していただいている家族もあるが、家族からの必要に応じて対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中から本人の希望を聞いたり、推測し、記録に残している。ケース担当者中心にセンター方式のシートを活用し情報収集を行い、みなで話し合って検討している。	東京センター方式の一部を活用し利用者がどのような暮らし方を望んでいるか等を具体的に記録し、家族からの情報や日々の生活から見られる言動をもとに、本人本位の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の中で昔話を傾聴し、本人の生活歴、なじみの暮らしを知るようにしている。また、家族面会時、世間話を交え、話を伺うなどしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の生活の様子を観察し、食事や排泄チェック表や個別記録を用いながら、働きかけによって出来ることや好みを把握したり、情報共有のために話し合いを持っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネとケース担当者中心に本人の希望・思いに沿ったプランになるように話し合い、作成をしている。毎月、担当者にモニタリングしてもらい、見直し、継続かの検討も行っている。	利用者の思いや意向の把握をもとに当初は現状に即した介護計画を策定しているが、介護計画にそって実践されたかどうかの日常的な個別記録が十分でない。そのため、モニタリングの根拠が明確ではなかった。	介護計画の見直しや評価は個別のサービス提供記録を基に行うことが大切である。利用者に変化が生じた場合にも記録し、実施記録を基にし検討会議を行い見直し継続かの検討をして欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア検討事項があれば、みなで情報を共有し、個別記録に細かに記録を残すと共に、短期目標に沿ったチェック表を活用し、ケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用料とは別の外出費用をもらい、皆で娯楽施設へ出かけたりすることはあるが、個別に利用者の状況に応じて柔軟なサービスへの対応は人員面、料金面等の課題もあり、困難も多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの学習センターに本を借りに行ったり、美容院に洗髪に行ったり、薬局の方に薬の配達や相談をお願いしたり、ボランティアの協力で園芸作業を利用者と楽しみながら、活動している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医へ定期受診をしながら、本人の状態を伝え、状態が心配なときは電話で相談したり、家族に通院を依頼したり、職員がホームの体制を説明するようにし、関係を作っている。	原則家族による受診支援が行われており、職員は普段の身体状況等を家族に伝え適切な診療が行われるよう留意している。かかりつけ医との連携は十分図られているが、協力医との連携は見られない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康状態を日常的に観察し、特変があれば併設のデイの看護師に見てもらったり、かかりつけ医に連絡するようにしている。訪問看護との契約を検討中。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時から医師と退院に向けた相談をし、本人の状況を明確に説明を受け、退院後の生活・通院等についての方針を家族を含め話し合いを持った。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期について家族とアンケートを通じて意思を伺い、話し合いを持った。個々のかかりつけ医へも、往診可能かどうかなどを相談し、ホームでターミナルを迎えられるように指針を検討し、準備中。	重度化・終末期に向けて事業所として対応できる支援範囲での指針は作成している。しかし、具体的に家族や利用者説明し同意はまだ得ていない。医療連携体制の整備についても検討しているところである。	対応指針に基づき家族や利用者事前に説明し同意を得ることが必要である。また、事業所が対応できる支援方法を研修等を行い職員間で共有することが大切である。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応の連絡方法や連絡先を準備しているが、救急救命や応急処置の定期訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に一度は夜間想定での火事避難訓練を計画し、行うようにしている。備蓄品の点検が不十分。地域との合同訓練は行っていないが、事業所職員が消防団に加入している。	消防署の立会いによる消防・避難訓練を年1回自主的な防災訓練を夜間想定を含めて年2回定期的に行っている。地域の防災訓練に参加しており、食料などの備蓄はある。	今後は地域への協力を呼びかけるとともに訓練の回数を増やして欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	周囲の状況に配慮し、それぞれにわかりやすい声かけを心がけ、本人のプライドを傷つけない声かけを行うよう、みなで話し合いを持っている。	個人情報保護や守秘義務について理解し徹底している。利用者に対する話しかけや対応についても自尊心を損なわないよう十分留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出時や、手伝いを頼む際、本人に気持ちを聞いたり、選択できるような声かけを行っている。状況によって、落ち着ける雰囲気環境を作るように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や本人の意思を尊重し、遅れて食事を取ったり、入浴時間をずらしたり、外での畑作業や昼寝など、本人の生活ペースに沿って見守りしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族了解の下、本人希望で白髪染めを行ったり、本人が希望する服を優先し着てもらったり、季節によってスカーフや帽子などがぶったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	利用者の希望に応じてパン食にしたり、好みの飲み物を提供したり、野菜の収穫から買い物、調理、片付けなど一緒にかかわれるように努めている。昼食は同じものを食べている。	利用者と職員と一緒に楽しみながら食事をしている。利用者が収穫した野菜等を材料にし調理をしたり、職員と一緒に後片付けをしたり食事を通じた作業を共有し楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の好みを情報共有し、栄養状態良くない場合や水分少なめの方には好きなものを出したり、おやつに補食したり、ジュースやゼリーなど勧め、チェック表をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に応じ、声をかけてうがいや歯磨き介助を行ったり、義歯洗浄の管理を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前や外出時などトイレの促しや声かけ、誘導を行い、チェック表を活用し排泄パターンを把握しながらトイレでの排泄をうまくできるように働きかけている。夜間のみ、ポータブルトイレ使用したり。	排便介助が必要な利用者にはトイレに排泄チェック表を貼っておき、排泄パターンを確認するなど工夫している。またさりげない声かけにより自立排泄を誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給やヤクルトなど乳製品の摂取を促したり、主治医と相談し下剤を調整してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	マンツーマンで状態に応じて入浴をゆったりと入れるようにしている。時間や曜日も本人希望がある方については希望にあわせ、足マッサージをしたり、歌を歌う時間に行っている。	いつでも入浴できるようになっており、利用者の身体状況を把握し、希望に合わせて支援している。入浴時に歌を歌うなどの言語療法を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の昼寝の時間を持ったり、就寝前入浴の方がいたり、消灯はその日によって異なり、それぞれ明るさや就寝時間が違って見守って支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の際、処方薬についての説明書をケースごとに保管し、すぐに確認できるようにするとともに、服薬を管理し、受診時に状態報告を行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事仕事を一緒に行ったり、習字や、ぬり絵、貼り絵をしたり、畑の手入れを行ったり、昔の歌や踊りを一緒に歌ったり、好きなものを食べに出かけたり、それぞれ出来る限り支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に食材の買い物と一緒にかけており、また計画的に外食や外出を行事に取り入れたり、天気や状況に応じて散歩やドライブ、家族のお店を訪ねたり、小学校へ訪問など行っている。	利用者の希望を取入れ買い物や外食等日常的に外出支援を行っている。近くに小学校があるため、訪問などもしており、気分転換に遠距離ドライブも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が安心するから、と家族希望により、小額を自分で持っている方もいる。外出時、預かっているお金で好きなものを自分で買ってもらうこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族へ手紙を書いたり、家族了解あれば、電話をかけることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭を花で飾り、ホールや玄関にも季節の花や手作りの作品を飾ったり、トイレの表示を大きくしたり、金魚を飼ったり、出入り口についたてを置き、騒々しい出入りを遮るなど工夫している。	リビングと中庭が接続しており自由に入出りができ、中庭にはパラソルの下にテーブルをセットし、自然環境に恵まれた居心地よい空間を演出している。利用者はお花を見ながらゆったり寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル配置を考慮しながら、テレビ前にソファを設置したり、和室にてコタツに入って少人数で過ごしたりすることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	各居室にはそれぞれなじみの家具があり、好みの写真やものが飾ってあり、自由にテレビなども持込されている。面会時にくつろげるように、いすを余分に置いたり、季節の花やカレンダーを飾ったりしている。	居室は利用者が使い慣れた家具やテレビが置かれ、好きな写真等が飾られてある。本人の意向を確認し日ごろから馴染んだ生活ができるよう生活環境に配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の居室までラインを貼ったり、トイレ表示を見やすくしたり、洗濯干し場を工夫したり、ポットを低い台に置いてお茶を安全に入れられるようにしたり、玄関にイスを置いたりしている。		

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム ユーズホーム

記入担当者名 小関 千里

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。